

高校教育改革検証部会におけるこれまでの論点整理

1. 検証の実施方針について

- 共学化・一学化に当たっては県民の方に色々な期待や懸念があったので、そういった期待・懸念にしっかりと応えられるような検証をすべき。
- 客観的かつ専門的な立場から検証を行い、説明責任を確保していくという趣旨から、実証的なデータを幅広く分析し、エビデンスに基づいた検証を実施すべき。

2. 現状把握の方法について

- まずは定量データをしっかり分析して傾向や課題等の糸口をつかむことを優先すべき。
- 定量データだけでは分からないことがあれば、別途、適切な調査手法を設計・実施して必要な情報を収集するという方法をとる。
- 現場の声を聞くことも重要であり、高校の現地調査を実施する。
- 高校の入口と出口の状況のほか、中学校と大学・企業等の状況を見てはどうか。

3. 施策の検証について

- 男女共学化、全県一学区化それぞれの施策のプロセス（施策の準備段階及び実施後における県教育庁・各学校の取組状況）をきちんと見ていくべき。施策のプロセスを見ていくに当たっては、①施策目的を実現するための取組が実施されているか、②それによって期待どおりの成果が出ているか、懸念事項は出ていないかを評価すべき。特に、懸念事項については、学校現場でないと分からないこともあるので、現場の情報をしっかり吸い上げる工夫をすべき。
- 定量データを幅広く収集して分析するとともに、現地調査などにより、各学校のグッドプラクティスやバッドプラクティスを調査することも重要ではないか。

4. 教育効果の検証について

- 本検証では、最終的にどういった人づくりを求めていくのか、そして、それが施策の実施によりうまくいっているのか、といった点も見ながら、中長期的に検証を進めていく必要がある。
- 一方、教育効果というのは非常に難しく、短期的に見られる部分と、20年・30年程度の長期にわたって見ていく部分がある。宮城県が目指す人づくりの方向性が最終的に実現されていくかを長期的に見ていくことは大切な視点。しかし、検証部会として責任を持ってできる範囲は限られる。検証部会が評価していることが、目指していく方向性の中で、どういった位置づけにあるのかを常に意識しながら検証を進めていくのが良い。